

植物 90

種子島で植物さがし

植物担当 金本 直子

種子島は、本土最南端の佐多岬から約40kmの南東洋上に位置し、長さ52km、幅6～12km、面積約450km²、最高点は約282mで、南北に細長く平らな島です。亜熱帯気候に属しており、自然林は少ないですが、マングローブ植物、北限・南限の植物、屋久島と共通した固有種など興味深い植物が見られます。今回は、昨年3月に植生調査を行なった際にマングローブ林、海岸、スダジイ林で見られた植物を紹介します。

◆ハマジンチョウ(ゴマノハグサ科)



花と果実(上)

斑状模様が美しい花卉(下)



ハマジンチョウは、塩性の湿地に生育する常緑の低木です。浜に生えるジンチョウゲ(ジンチョウゲ科)に似ていることが和名の由来ですが、ジンチョウゲとは分類上は全く異なる植物です。3月下旬に中種子町のメヒルギが生い茂るマングローブ林の中を歩いていくと、たくさんの花をつけるハマジンチョウを見つけました。花卉の様子は、中央が濃い紫色のものから、薄く斑点状の模様のものまで様々でした。左の写真の下部に写る果実は、成熟するとコルク質のため海水に浮き、海流に乗って散布されます。生育地である塩性湿地が海岸開発等で少なくなっていることに伴い、絶滅を危惧されており、県の絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。種子島以外には、阿久根や奄美大島に生育しています。

◆オキナワチドリ(ラン科)



オキナワチドリの花が熊野海岸にほど近い砂地に数個体咲いていました。花の大きさは約1cmで、薄紫色の縁取りと濃い紫色の斑点模様の可憐な花です。南国の妖精と呼ばれることもあるそうです。本土の東シナ海側から与論島まで広く生育し、県の準絶滅危惧に指定されています。

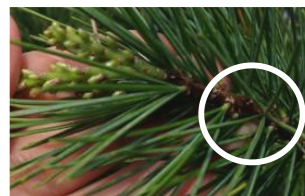
◆ムラクモアオイ(ウマノスズクサ科)



葉(左)と花(右)

ムラクモアオイは、種子島の固有種で、屋久島にだけ自生するクワイバカンアオイの変種とされています。斑入りのハート型の葉が特徴で、薄暗い林の中でも見つけやすい植物です。花は秋から冬にかけて咲くとされていますが、3月下旬にも一箇体花を見つけることができました。今回中種子町のスダジイ林の林床で観察した花は、直径約3cmで暗い紫色をし、地面すれすれで咲いているため見つけるのが難しかったです。

◆ヤクタネゴヨウ(マツ科)



1か所から5枚の葉が出ている様子(上)

ヤクタネゴヨウは漢字で「屋久種子五葉」と書きます。漢字の通り、種子島と屋久島の固有種で、葉が5枚ずつ束になってつきます。左の写真は、中種子町増田の民家の庭に育つヤクタネゴヨウで、20mを超える高木でした。種子島では自生する個体が非常に少なくなっており、県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。